

標野

発行
阿蘇中央高等学校
育友会
2014年7月18日発行
印刷 つるばやし印刷

地域とともに、新たな躍進 ～想いは一つ心ひとつに～

「限界突破 ～本気の自分を 呼び覚ませ～」



校長 山下 照喜

平成二十六年第三回「五岳祭」のテーマが「限界突破～本気の自分を呼び覚ませ～」でした。当日は時折強い風も吹くこともありましたが、晴天のもと予定どおり実施することができました。生徒会を中心に準備を進めてきたが、すばらしい「五岳祭」でした。全ての種目・競技に本気で自分の限界に挑戦する生徒諸君の姿がありました。何事にも真剣に、必死になって、ひたむきに頑張る姿は人を感動させるものです。生徒諸君の限界に挑戦する姿に感動しました。また、全校生徒で取り組んだマスゲーム「Act to get there」短い練習時間でしたが、全校生徒が一致団結して取り組んだ演技は素晴らしいものでした。阿蘇中央高校生の集中力、きつい練習にも弱音を吐かず、自分のミスは全体に迷惑をかけるという、自分が頑張らなければと頑張った責任感、そして堅い絆など、温くなった阿蘇中

央高校生を見せてもらいました。多くの保護者の皆さまや当日会場まで足を運んでいただいた方々から「生徒の皆さんは本気よく頑張る」とお褒めの言葉を多く聞きました。五月末から六月初めにかけて行われた熊本県高校総合文化祭、高校総合体育大会でも阿蘇中央高校は大活躍してくれました。総合文化祭では吹奏楽部のパレード参加から始まり、華道部、茶道部などの出品展示、高校総体では剣道部女子の団体・個人優勝や日本拳法部の団体・個人優勝馬術部では男子生徒二人が全国大会出場を果たすなど、すばらしい活躍をしてくれました。選手諸君の努力はもうそろそろですが、指導していただいた先生方や日頃から熱心に部活動の活動に応援いただいている保護者の皆さまに心から感謝申し上げます。

さて、本校は県内で唯一の校舎制学校として誕生して以来五年目を迎へ、「校舎は二つ心は一つ」の言葉を胸に、それぞれの校舎の特徴を活かした学習や体験を通して学び合い、成長してきました。一昨年度まで両校舎で「蘇光会」「蘇水会」として組織されていた「育友会」も昨年度から一本化され、家入正雄会長を中心とした「阿蘇中央高校育友会」が誕生しました。一本化に向けては当時の役員の方々に大変ご苦労があったと思いますが、今年度二期目になります。校舎の垣根を越え、子どもた

希望ある未来に 向って



育友会会長 藤井 栄治

私は、先日の総会におきまして、会長として、ご承認いただきました藤井と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。平成二十五年役員の方々は、大変お世話になりました。昨年度から阿蘇中央高校育友会として一本化活動しております。平成二十二年四月長い歴史と伝統をもった阿蘇高校と阿蘇清峰高校が再編統合した一学期生が入学し、本校の教育方針である校訓「岳を仰ぎ 大志を抱き 未来を拓かん」のもと、子どもたちが国際社会で活躍できる大人を目指し、そして「校舎は二つ、心は一つ」の言葉を胸に、それぞれの校舎の特徴を生かした学習や体

験を通じた活動に取り組んでいます。また、教育目標「地域とともに」を掲げ、勉学に部活動に先生方が熱心に指導に当たっていただき、その成果を見事に発揮されていると思います。「五岳祭」を終えて、先日、県高校総体では、剣道女子、日本拳法、馬術等が全国大会への出場権を獲得しました。二〇二〇年に東京オリンピックが開催される頃、子どもたちにとって、希望ある未来であってほしいと願っています。

さて、私達親が忘れてはいけないことがあります。私達が子どもの頃に学んだ人となりのふれあいの中で「日本人の心」のぬくもりを伝えることです。アナログとデジタルをバランス良く融合し、自らを律しながらも他人を思いやる豊かな人間性を備え、未来を築く力を身につけてほしいと願います。果敢と前向きな子どもたちに、教えることは少ないかも知れませんが、もう一度、子どもと向き合い、親として、人生の先輩としてしっかりと伝える最後の三年間であると思います。厳しい時代であるからこそ、実りある学生生活が送れるように保護者の方一人ひとりが、家庭教育を充実させ、ともに成長できる家庭環境を築いていただければと思います。

そこで保護者の皆さまに、卒業後の進学、就職のため子どもの「自立支援」の一環として、家庭でのご支援を賜りたいと考えております。具体的に三つの提案があります。

- ①まず挨拶運動です。元気な挨拶が出来る生徒を目指します。
- ②次に、早寝早起き朝ごはんです。規則正しい生活習慣、食生活を高校生活時に身に付けましょう。
- ③三つ目に、全生徒部活動加入が目標です。

最後に、先代のPTAや先生方が築いてきた学校との協調性を大切に、より一層の信頼関係を築き、保護者・地域の皆様と協力し、子どもたちの教育環境を整え、健全に育む環境改善と維持に努力してまいりたいと考えております。

平成二十六年入学式

四月八日、春爛漫の澄み渡る青空の下、百九十四名の新入生の為に入学式を挙げて頂きました。新しい制服に身を包み、緊張した面持ちで入場する子どもたちの成長した姿に感謝し、阿蘇中央高校での毎日が充実した日々になることを心から願いました。出会いを大切に、希望に満ちた校訓、校歌の如く、雄大な大自然の中伸び伸びと学び、夢を実現してください。

れたらと思います。先生方におかれましては、子どもたちへの暖かいご指導、ご鞭撻をよろしくお願い致します。数ある学校の中から阿蘇中央高校を希望して入学してきた子どもたちです。一人ひとりの個性を大切に、後悔させることのない様、ご尽力頂けたら幸いです。

新入生代表挨拶 宮下 瞳



本日は私たち新入生のためにこのような盛大な式を挙げて頂き誠にありがとうございます。暖かい春の日差しに包まれ、私たちは阿蘇中央高等学校への入学の時を迎えました。新しい制服を身にまとい、私たちはこれから高校生活に大きなやる気と少しの不安をいだきながらこの場におります。

これからの三年間阿蘇中央高校で過ごす日々の中で、勉強はもちろん、部活動や学校行事においても積極的に取り組み、阿蘇中央高校に貢献できるように努め、新たな経験を通して、多くのことを学びたいと思います。また新たな経験をしていくにあたって、諸先生方、先輩方、保護者の皆さまのお力をお借りする時が来ると思います。その時はどうぞ時には厳しく、そして時にはあたたかくご指導ください。よう、よろしくお願ひ申し上げます。そして私たち新入生一同は阿蘇中央高校の生徒として誇りを持ち、家族や先生方、先輩方に恥じないよう一つひとつの行動に責任を持ち、自立した高校生活を送れるよう心がけていきます。私たち新入生一同は、この三年間で、大きく翼を広げ夢をつかむため努力しつづけることをここに誓います。本日はありがとうございました。

育友会二年目に 向けて



育友会会長代理 児玉 光也

四月に開催されました育友会総会において、御承認頂きました児玉と申します。会長代理という役職に責任を痛感しております。平成二十六年度育友会がスタートして二ヶ月半余り、長い歴史と共に築き歩んできた阿蘇高校と阿蘇清峰高校、互いに伝統を持つ学校

が一つになり阿蘇中央高校となつて早五年目を迎えました。ここに至るまでにたくさんの方々と時間を費やしたことを忘れてはなりません。保護者会旧役員の方々の御尽力によりまして阿蘇中央高校育友会が誕生しました。そして、今年二年目を迎えた育友会は、藤井会長を中心とした常任委員の皆さまには今年一年間たいへんお世話になりました。「育友会」の年間行事が山積みしている中、子どもたちは自分の目標に向かって勉強、部活動に日々取り組んでいます。子どもたち皆さんが阿蘇中央高校に通って良かったと思えるような学校づくり、夢を持ち夢に向かつて邁進できるような環境づくり「大人に近づく三年間」でもあります。

校長先生をはじめ諸先生方には日頃から学習、部活動などに、生徒一人ひとりの個性を生かした指導がなされていることに、たいへん感謝の気持ちでいっぱいです。育友会活動は保護者会員の皆様方、そして地域の皆様方に支えられている活動の場と思えます。是非とも学校にお立ち寄りになりお子様の様子、ご意見、ご感想をお聞かせ願えたらと思います。両校舎の会員の皆様方、そして先生方と二丸になって育友会活動に取り組んでいきたいと思えます。地域に根付き地域の皆様方のお声を取り込みながら地域に愛され、魅力ある、かつ特色を生かした阿蘇中央高校を目指して行きたいと思えます。皆様方の御理解御協力をよろしくお願い申し上げます。

皆様の協力に感謝

熊日高校PTA新聞 コンクールにて入賞

阿蘇中央高校の広報誌として発行しました「標野（しめぬ）」が、上記コンクールで昨年に続き佳作に入賞し、平成二十六年四月十二日（土曜日）に熊本日新聞社本社にて開催された第二十六回熊日高校PTA新聞コンクール授賞式に参加しました。



度々開催した広報委員会でありましたが、この受賞は、その広報委員の皆様の努力が報われたものと思います。広報誌としては未熟な部分が多々あると思いますが、

多くの保護者の皆様方や先生方に支えられながら活動させていただいたところです。この受賞を今後の活動の励みとしながら、生徒たちの学校や地域での活躍を少しでも皆様にお届けできたいと思っております。今後とも、皆様方のご協力をよろしくお願い申し上げます。

